

科 目 名	総合実習Ⅱ【作業】					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	青 山 宏・作業療法士教員全員						
開 講 年 次	4	開講期	前期	単位数	7	必修・選択	必 修（作業）
授業の概要 及びねらい	実習指導者の指導・教育のもと、学内で習得した専門知識と技術を駆使して総合的な作業療法の実習を行う。複数の対象者に対して、それぞれに応じた評価、治療計画立案、治療といった一連の過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子（環境、個人等）を考慮した作業療法の実践力を養う。さらに、リハビリテーションチームの一員としての役割を自覚し、社会人として節度ある態度と協調性を身につける。						
授 業 の 到 達 目 標	1. 対象者に対して、適切な態度で対応することができる。 2. 医療専門職として責任及び節度ある態度と行動をとることができる。 3. 対象者の課題解決を図るための評価ができる。 4. 対象者の課題解決を図るための治療計画の立案ができる。 5. 対象者の課題解決を図るための治療プログラムの実施ができる。 6. 対象者の課題解決を図るための上記の基本的作業療法の一連の過程を総合的に行うことができる。 7. 学生として必要な記録と報告ができる。 8. 症例報告書をまとめ、発表、提出することができる。						
学 習 方 法	実習施設において実習指導者の指導のもと、対象者に対する作業療法の総合的実習を行う。						
テキスト及 び参考書等	特に指定しない。						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標						評価割合%
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度							
その他	実習指導者の評価、実習報告書、セミナーでの発表・討論を総合的に評価する。						100
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
	実習施設において実習指導者の指導のもと、対象者に対する作業療法の総合的実習を行う。 実習日時、実習施設、実習内容については改めてオリエンテーションを行う（実習期間は旧カリキュラム8週間、新カリキュラム7週間）。 臨床実習後に学内において実習セミナーを開催し報告と討議を行う。						
備 考	実習前後の予習、復習をしっかりと行うこと。						